

第百三十二話 かつては戦友だった！（1）

日清戦争の結果日本に割譲（1895/4/17）された台湾及び日韓併合（韓国併合に関する条約 1910/8/29）による日本となった朝鮮、これら外地にあった国民も、大東亜戦争に色々な形で参加している。現在韓国とは最悪の関係だし、台湾との関係も中国に配慮してやや疎遠である。これら両国民の大東亜戦争への参加状況を概見することでかつての絆が取り戻されれば幸いなのだが・・・

1 支那事変勃発後にこれら外地に徴兵令施行

戦争の長期化が見込まれることから、1938(S13)年2月に朝鮮人に対して陸軍特別志願兵令が施行された。台湾人に対する陸軍特別志願兵制度は1942(S17)に施行された。特別志願兵制は海軍にも適用された。尚、台湾原住民志願者で編成された高砂義勇隊も存在する。陸軍士官学校を卒業し或いは学徒動員により軍務に赴いた者もいる。



2 朝鮮人日本兵

(1) 陸軍士官学校及び陸軍幼年学校への留学

朝鮮人留学生の第一期生は、陸士11期生であり、明治32年卒業、日本では寺内寿一元帥が11期生である。その後、当初は飛び飛びに、戦況逼迫した段階では各期に入学している。彼等は、日本統治終了後、韓国軍の主力として朝鮮戦争でも指導的役割を果たし、1969年迄の陸軍参謀総長は旧日本軍出身者であった。他に首相、大統領等を輩出している。

(2) 陸軍兵士等としての採用

陸軍に朝鮮人が大量採用されたのは、1910年創設の憲兵補助員制度によるもので、軍属とされ、制度廃止に伴い警察官に転じた。

朝鮮人が一般の兵卒として入隊することは出来ず、陸士を卒業するか、旧大韓国陸軍から転籍した者に限られていた。海軍の士官養成諸学校は朝鮮人の入校を認めなかった。尚、1944年からは徴兵も行われた。徴兵数は1944及び45の二カ年で陸海計13万との資料がある。学徒志願兵が3117人。

陸軍特別志願制度による訓練所入所者数（入隊者数とほぼ同義）（括弧は倍率）

1938：406人（7.3倍）、1939：613人（20.2倍）、1940：3060人（27.6倍）

1941：3208人（45.1倍）、1942：4077人（62.4倍）、1943：6000人（50.6倍）

朝鮮人の軍人・軍属は、24万2341人とされる。

分類	動員数	不明または戦没	不明または戦没率
全体	242341人	22182人	9.2%
軍人	116294人	6178人	5.3%
軍属	126047人	16004人	12.7%

(3) 朝鮮出身兵の処遇について

陸軍は出身兵の取り扱いに対して、細やかな配慮をするよう通達している。飲食物、歴史・伝統・風俗・習慣・生活様式等を理解し、言葉遣いにも注意すべし等々驚く程細やかだ。

(4) BC級戦犯結果 219人が有罪 内14人が死刑

(5) 弔慰金等の給付

日本国籍を離脱した者に対しては、本来は1965年の日韓基本条約並びに所謂請求権協定等により、戦没者遺族等に対する弔慰金の支給は、韓国政府が支払う義務があったが、様々な歴史的経緯と政治的事情に鑑み、日本政府は弔慰金、見舞金を支給した。戦没者ご遺族 弔慰金（一時金）260万円等

台湾人日本兵は次話に譲る。